

学習日誌

2月 14日 (金)	講 師	門田高士
出席者数	68	記録者 12年12班 和田好弘
講座名	視聴覚講座2 NHKドキュメンタリー 昔の暮らし	
プログラム担当者	門田高士・青島靖次・山田秀昭・大平多美子・塚脇透・和田好弘	
時間・場所	13時30分 ~15時30分	東地区文化センター にて

【学習内容】

NHKドキュメンタリー「昔の暮らし」から視聴した後、「回想法」によるディスカッション

前半：「学校」「子どもの遊び」「庶民の暮らし」「家庭」を視聴する。

(話されたこと)

- ・脱脂粉乳もコッペパンも不味かった。・給食がなかった。・日の丸弁当が多かった。
- 終戦直後、子どもが多かったので、2部授業だった。イナゴをとってお金にした。
- ・疎開してきた子どもたちはお弁当を持ってこない子が多かった。・校舎が焼かれて、他の学校で卒業式をした。ゲタを履いている子が多かった。入学前はカタカナを勉強した。
- ・だるまストーブで弁当をあたためた。・教室の暖房は豆炭だった。



- ・運動会は、近所の人たちみんなで集まった。
- ・田んぼのスケート。
- ・自分で遊び道具を作った。小刀は男の子が全員持ち器用だった。
- ・青っぱな汁を垂らしていた子が多かった。
- ・米やトウモロコシをポップコーンのように加工してくれる業者が回ってきた。
- ・食べた物は、草の根、トンボの腹、桜の樹液、ドジョウ、スズメ、桑の実があった。

後半：「交通」「街の様子」「年中行事」(話されたこと)

- ・ダイハツミゼットが多く走っていた。汽車のトイレからは、糞尿が垂れて黄害と言われた。
- ・車内に機関車の煙が入り、鼻が真っ黒になった。・座間に木炭バスが走っていた。
- ・今は過疎化が進んでいるが、田舎は人がおく、地域の人の交流が盛んだった。
- ・傷痍軍人をよくみかけた。・原町田駅は闇市の名残だった。・魚売りなどの行商やチンドン屋が回ってきた。・花火大会でカーバイトの匂いが印象に残っている。・栗原神社の行事が懐かしい。
- ・お餅が貴重品で、昔はたくさん食べた。・東京も積雪がすごかった。
- ・フラフープは腸に穴が空く、と言われた。・小田急でも窓から手や足が出ていた。連結器の上にも人が乗っていた。

【感想】

- ・地域、年代等で経験も違うが、映像で思い出された様々な事を話し合い楽しかった。・話が盛り上がり楽しかったです。良い企画でした。・次は、別の時代を取り上げて欲しい。ディスカッションは年代別が良い。・子ども時代は物がない、食べ物がない、でも楽しく過ごした。健康的だった。
- ・戦争して、庶民にとって何もいいことはない。